月刊 やちまなこ

2026.10.15 発行

No.347

10 月号

釧路湿原国立公園　　塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより

塘路湖のタンチョウ

湖畔の砂地を歩いていると目の前に低空飛行から着陸した２羽のタンチョウ。こちら（人間）の存在に気付いていないのか大音量で鳴き交わしを始めた。

ツル科の気管は呼気流によって生じる小さな振動（音）を竜骨突起に伝達し、その振動に気嚢が共鳴することで大きな声が発せられるという。気管がただ長いだけではなく、胸骨に入り込み２周して肺につながっている。

繁殖期には直径３ｋｍもの縄張りを誇示するため、100 デシベル（電車のガード下、車のクラクション並）に達する大音量が必要であるらしい。

塘路フィールドノート【9/15～10/14】

【野鳥】

渡り鳥の飛来が本格化。これから水鳥たちがさらに増え、晩秋には猛禽類も加わり渡り鳥たちの最盛期を迎え賑わう時期。水辺ではうるさいほどのガンカモ類の鳴き声が響き渡る。

ヒシクイ（シラルトロ湖）
第一陣は９月中頃に飛来。日ごとに群れが入れ代わり立ち代わりで賑わう。カモ科

イカルチドリ（塘路湖）
北海道では夏鳥。道外では一年を通してよく見られる留鳥。昆虫が主食。チドリ科

キバシリ（塘路湖畔）
文字通り樹幹の移動が非常に速い。細い嘴で木の隙間のクモや虫を捕食。キバシリ科

カイツブリ（シラルトロ湖）
水草の多い場所で動かず休憩中。雑食性で小魚、エビ、水生昆虫を捕食。カイツブリ科

カケス（コッタロ湿原）
寒くなると標高の低いところにやってくる。クマゲラや猫の鳴き声も真似る。カラス科

オカヨシガモ（シラルトロ湖）
冬鳥として全国に渡来する水面採餌ガモ。北海道では一部繁殖。色彩は地味。カモ科

【植物・菌類】

釧路湿原周辺では秋らしく涼しい空気と秋晴れによる高井晴天率となっている。高山では紅葉の当たり年といわれたそうだが釧路湿原でも期待ができそうだ。周辺では各種の赤い実とキノコが目立つ。

サラシナショウマ（晒菜升麻）
晒し菜とは水にさらしてアクや臭みを抜いてから食べたことに由来。キンポウゲ科

エゾニワトコ（蝦夷接骨木）
葉は鎮痛薬、果実は食用、新芽は山菜と古来より利用されてきた低木。ガマズミ科

ミヤマニガウリ（深山苦瓜）
近年の研究で秋に葉が花や実を包み、実の成長を促す「温室」を形成と判明。ウリ科

チョウセンゴミシ（朝鮮五味子）
甘み・酸味・辛味・苦味・塩味の５つの味を持つ。本州中部以北に自生。マツブサ科

アカエノズキンタケ（赤柄頭巾茸）
出現はブナやミズナラ林などの腐葉中。分布は日本、ヨーロッパ、北アメリカ。ズキンタケ科

ツバヒラタケ（鍔平茸）
主に広葉樹（稀に針葉樹）の立ち枯れ木に発生する珍しい木材腐朽菌。ヒラタケ科

【昆虫・爬虫類】

晴天率の高い今年の秋は昆虫の出現期間も長く、行動も活発。陽当たりの良い場所では爬虫類の日光浴も見られることも多い。

マダラナガカメムシ（塘路湖畔）
北海道と本州北部で見られる寒冷系のカメムシ。臭気は少な目。ナガカメムシ科

シマヘビ（塘路原野）
孵化して間もない幼蛇２匹が折重なる。下は通称カラスヘビという黒化型。ナミヘビ科

オオセンチコガネ（茅沼）
哺乳類の糞処理に一役買っている。秋に入っても元気に活動中。センチコガネ科

◎生き物 Pick Up ピックアップ～ベニテングタケ

ベニテングタケ（テングタケ科　紅天狗茸　*Amanita muscaria*）はその特徴的な色形からヨーロッパでは幸運を呼ぶキノコとされている。毒の成分はイボテン酸、ムッシモール、ムスカリンなど。このうちムスカリンはベニテングタケの学名の由来となっているが含有率は極小である。中毒症状は腹痛やおう吐、下痢、けいれん、幻覚作用など。毒キノコではあるが旨味成分も多く、致死にならないため長野県の一部では塩漬け保存して食べる習慣が残っている。海外でもあえて幻覚を引き起こすために食してきた歴史事実が多く残っている。毒も旨味も持っているというこのキノコと対面したときに感じる好奇心と怖さは、魅力的であるのは間違いない。

森とキノコの不思議な関係～自然ふれあいイベント

10月3日（土）、京都大学フィールド研（標茶町多和）の杉山賢子助教を講師に迎え、森とキノコの密接な関係を知るイベントを茅沼蝶の森にて開催しました。現地を歩きながら見つけたキノコの実物を見せながら、キノコの生活史や発生する樹種の違い、定着するキノコの種によって分解された材の色が変わることなどを解説していただきました。

また、最新のDNA解析により従来の分類が変わっていることにも触れ、研究者ならではの説明を受けて参加者は知的好奇心を刺激された様子。外生菌根菌と腐生菌を実際に見て森の中を歩いてみるとさらに理解が深まり、参加者自ら探し当てるキノコも多く、ヒラタケやヤマブシタケなどの発見に一同興奮する場面も。研究者と現場を歩くことでより一層楽しく理解を深めるイベントとなりました。

確認種：20種以上　参加者8名

観察風景

ハナイグチ

チャナメツムタケ

ヤマブシタケ

ヒラタケ

11月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

クリスマスリースを作ろう

[日　時]　11月28日（土）13時～15時
[定　員・参加料]　15名　500円（材料費）
[開催場所]　塘路湖エコミュージアムセンター　◎**問合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで**

初冬の植物を見に行こう

[日　時]　11月15日（日）10時～12時
[定　員・参加料]　15名　無料
[開催場所]　温根内ビジターセンター
◎**申込・問合わせは温根内ビジターセンター（0154-65-2323）まで**

クリスマスリースを作ろう

[日　時]　11月29（日）13時～15時
[定　員・参加料]　15名　500円（材料費）
[開催場所]　温根内ビジターセンター
◎**申込・問合わせは温根内ビジターセンターまで**

【開館時間変更のお知らせ】

11月1日（土）よりセンターの開館時間が下記のとおり変更となります。
○10：00～17：00　→　**10：00～16：00**（令和9年3月31日まで）

◆日出・日入時間　9/30(5:16,17:07). 10/15(5:33,16:41).10/31(5:53,16:16)

～指導員の独り言～

■富良野市在住の脚本家、倉本聰さん（享年91）の好きなものがウィスキーだった。同じく91歳で亡くなった釧路出身の音楽家、伊福部昭（1914～2006）は日本酒好きだった。酒もたばこもやめずに91まで生きたこの二人。人生とは、健康とは、長生きの価値とは、色々考えさせられる。果たして自分の寿命はあとどれくらいなのか、酒でも飲んで考えてみよう。いや考えるのをやめよう。アルコールと反応して中毒症状をもたらすホテイシメジというキノコがある。大酒飲みに一度食わせてみたいが、犯罪となりうるらしい？　(M)

釧路湿原国立公園
塘路湖エコミュージアムセンター　あるこっと
〒088-2264　北海道川上郡標茶町塘路原野
TEL：015-487-3003　　FAX：015-487-3004
E-mail：emc@kushiro-shitsugen-np.jp
インスタグラム　torokoemc
開館時間：10：00～17：00
（11～3月：16：00まで）
休館日：毎週水曜日　12月29日～1月3日
入館無料